

日本菊花全国大会への出展示

フラワーファクトリ科 3年 堺桃華 武川郁音 濱光輝 本橋杏汰朗

山秋柚乃 山本正宏 吉川夏琴

2年 上田あさみ 梅田宙 江本涼那 大西悠太

小林沙依 徳田拓海 戸田柚衣 橋本魁治

山南寧々

はじめに

草花B班では毎年日本菊花全国大会への出展、入賞を目指し様々な菊の栽培を行っている。全国の菊作り名人が出展する大会であり、菊作り日本一を決める大会である。大会は三本立て花壇、福助花壇、盆栽花壇、小品盆栽花壇、特作花壇、三本仕立単鉢、切花、組花、ダルマ作りの9部門で構成されている。草花B班2年生は福助花壇、3年生は三本仕立単鉢学校の部、2、3年合同で特作花壇の部に出展している。今年度も出展し、上位入賞を目指した。

特作花壇の作成

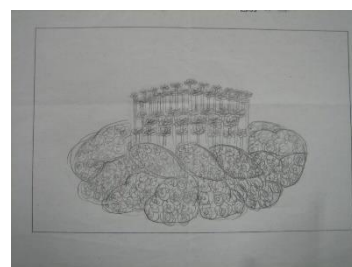
今までの作品を参考に花壇の設計をし、懸崖菊の形を強調することができるデザインにした。草花B班で作成する大、小の懸崖菊、三本仕立て菊、3年草花で作成するポットマムなどを組み合わせて作る作品にした。4月から小懸崖菊の栽培、三本仕立ての栽培を行った。栽培と並行してもう一度花壇の計画を見直した。花壇は

4m×5mのスペースを飾るが高さは3mほどあり、最初の計画では他の作品と比べてボリュームがないよ

うに見える、高さをもっと活かしたデザインのほうが映えるとのアドバイスがあった。そのため高さを使えるように段差をつけるようにした。懸崖菊の形を活かすデザインを考え鶴を形作るようにした。懸崖菊を横むきにおくとかん水ができないという問題が起るため、かん水ができ、懸崖の形を見せる方法を考えなければならなくなった。茎をむりに曲げると折れてしまうおそれがあったので一度鉢



から出し植え替えさらに折れない程度に角度をつけた。鶴の首は発泡スチロールで作ることにした。出展にむけ一度花壇を組んだがまだ花が咲かず、緑色ばかりなので全体のイメージはつかみにくかった。設営当日、例年であれば3年生全員と2年生の希望者が会場で設営するが、2年生が中間審査中であつたため、3年生だけで行うことになった。1日かかり無事イメージ通りの花壇を作ることができた。



結果

特作花壇は南大阪振興促進議員連盟幹事長賞、三本仕立てでは和泉市教育長賞を受賞することができた。

終わりに

今年度11月に2年希望者で会場に見学に行った。様々な作品を見て実際の会場を見て来年度にむけてより良い作品作りをしてほしいと思う。

